



りゅうど 言葉の粒度

校長 神田 朋恵



【今年もたくさん実をつけた
中庭のナツミカン】

11月1日に、創立50周年記念式典及び祝賀会を恙なく執り行
えましたこと、感謝申し上げます。次の未来に向けて、教職員一
同、子どもたちのために全力を尽くしてまいります。

さて、過日、興味深い話を聴きました。まず、今時の子どもの3つの特長です。

- 1 言葉の粒度が低い…「やば！うぎ！だる！ふつう…。別に…。眠い…。飽きた…。」など
- 2 いい人戦略…「いい人」であることが処世術
- 3 答えをすぐに知りたがる…子どももタイパ重視。すぐに解答を求める。正解を忘れない。

現代の1日の情報量は、平安時代の一生分、江戸時代の一年分とも言われています。(『思考の整理』鈴木進介) YouTubeやTikTokも短い時間のものが好まれ、言葉がスタンプ化しているというのです。だから対応策として3つのフレーズで話すと語彙が増えていくそうです。先月の講話朝会では、文房具を例に挙げて「やば！カワイイ！便利そう！」、美味しいラーメンを食べた時には「やば！麺がつるつる！スープが濃い！」こうして言葉を増やそうと話しました。

次の言葉かけは、どちらがいいと思われませんか？

すごい！86点なんて！ママ(パパ)嬉しい。／よかったね！昨日遅くまで頑張ったもんね。

前者の場合、子どもは86点より下がるのが嫌になる。だから、簡単な問題しか解かなくなるそうです。塾の先生は「絶対止める」と言っているそうです。後者は、子どもの様子をしっかりと見ている。子どもには「いつも見ているよ」というメッセージが大切です。

『君たちはどう生きるか』の編集者に、どこに反響が多かったか聞いたところ、もちろん、学校に行けなくなった主人公に反響は多いが、意外にも、学校に行けなくなった主人公に母が失敗談、悔恨を話す場面、そこに反響が多いそうです。子どもは、大人の失敗談を聴いたことがない、と。子どもも、私たちと同じように、失敗するのは嫌です。まして大人は、失敗しないように、ルールを敷きがちです。だから逆に失敗談を聴かせる。すると、子どもたちは安心するそうです。

先日、スマホを落としました。警察に届けても、結局自分に連絡をとる方法はないのだと、痛感しました。この話を12月講話朝会でしました。子ども達、心配そうに聞いてくれました。

「失敗しても大丈夫」「失敗を乗り越えていこう」はよく言います。私もです。

子どもの周りも情報に溢れています。子どもの周りにいる大人が、子どもに声をかける、その内容について、少し立ち止まって考える必要があると思った話でした。

いよいよ年末です。皆様、お身体に留意され、どうぞよいお年をお迎えください。